


〇 コース <安居山地区>

安沼用水の里を歩くコース

— みどころ —

安沼用水により、畑作地は水田地帯となった。また、安居山地区にはいくつかの古い道筋が通い、道筋には道祖神などの石造物が残されている。


みどころポイント 石造物  用水



スタート
安居山一区公会堂
安居山603-2

ゴール



スタート&ゴール
安居山一区
公会堂 



距離: 約5km 所要時間: 約2時間

マークの凡例: 観察ポイント ● 説明板 ▲ トイレ  駐車場  寺院  神社  ルート 
季節の花  富士山眺望ポイント  石造物  番外のみどころ ●

— コースのみどころ —

①八幡宮

秋祭りには、豊作を感謝して子供たちによる相撲が奉納される。

②安居山太郎の墓

富士の巻狩のおり、源頼朝が「別所の信定」の屋敷を訪れたという伝説がある。安居山太郎はこの「別所の信定」と考えられ、ここが墓所といわれている。しかし、この五輪塔は江戸時代のもと考えられる。

③安沼用水水神碑

高さ約8m、幅約7mの巨大な自然石に「水神」と記されている。明治43年(1910)に安居山・沼久保地区の住民がつくった水神碑で、碑面には安沼用水開削工事について記されている。

④御見給の道祖神

側面に「右つりはし 左大ミヤミち」と彫りこまれており、道標を兼ねた道祖神である。安居山から沼久保にかけては、身延山久遠寺(山梨県身延町)に至る身延道が通っていたため、道標が多く見られる。

⑤水無の畑作地

この辺り一帯は「南原」と呼ばれる水のない場所で、昔は一面の畑作地帯だった。大中里や安居山の集落から離れた場所なので、農作業の人たちは弁当を持って牛車や馬車で畑に通っていたという。

⑥中別所の道祖神

寛政3年(1791)造立。ふっくらとした童顔の男女が合掌している双体道祖神である。

⑦別所の道祖神

上別所の道祖神で、「右大宮よしわら道」と彫りこまれており、道標を兼ねている。道標を兼ねた道祖神は市内では珍しい。

⑧郡石

江戸時代の書物に、富士郡の形をした大石があると記されている。また、富士の巻狩のおり、源頼朝がこの石に腰掛けて流鏑馬を見物したといわれ、「腰掛け石」とも呼ばれている。

⑨安沼用水隧道出口

安沼用水は芝川を水源とし、西山から安居山までは隧道(トンネル)を流れる。用水は幕末に計画されたが工事が難航し、明治28年(1895)にようやく完成した。

⑩別所稻荷塚古墳

6～7世紀に造られたと推定される別所古墳群の一つで、基底部の直径16～17mと想定される円墳である。別所稻荷塚古墳のすぐ北側には、明治時代に太刀や鉄製品などが多数発掘された別所一号墳(別所古墳)跡の石碑がある。

番外) 摩利支天塚

明治時代初めころ、沼久保に住んでいた佐野幸左衛門が、拾って来た石を積み上げてつくった塚である。周囲64m、高さ8m程ある。何処からか運んできた馬頭観音が祀られているので「石塚観音」と呼ばれたり、単に「石塚」と呼ばれたりしてきた。